

第3次安曇野市農業・農村振興基本計画

計画期間

令和4年度(2022年度)～令和8年度(2026年度)



田園風景と共生する農と暮らし

次世代へつなぐ、ゆたかな安曇野



令和4年(2022年)3月

安曇野市

はじめに

1. 本計画の背景と目的

本市の水田と山脈からなる田園風景を活かして、農業と農村が一体となって、地域の魅力を創出していくためには、国・県の動向を踏まえながら、独自の農業振興の方向性を定めていくことが求められます。

担い手の高齢化・後継者不足や農地の有効活用等の地域の課題、国内の人口減少やグローバル経済の変化に対応し、「農」のある魅力的な地域を創っていくために、**農業及び農村の振興に関する施策を計画的に推進し、もって農業及び農村に対する市民の理解を深めるとともに、本市の農業及び農村の持続的発展を図ることを目的として、第3次安曇野市農業・農村振興基本計画（以下、本計画）を策定します。**

国の動向

新たな食料・農業・農村基本計画では、「産業政策」と「地域政策」を両輪として推進し、食料自給率の向上と食料安全保障の確立を図るものとなっています。「地域政策」では、幅広い関係者と連携した「地域政策の総合化」によって、農村を次世代へ継承していくという政策概念が強化されています。

県の動向

「第3期長野県食と農業農村振興計画」が策定されており、「次世代へつなぐ信州農業（産業としての農業）」「消費者とつながる信州の食（消費者が求める食）」「人と人がつながる信州の農村（暮らしの場としての農村）」の3つの基本方向をもとに施策が展開されています。

第1章 安曇野市の農業の状況と目指すべき姿（施策の方向性）

1. 調査の実施概要

本市の農業の現況を把握するため、信州大学農学部との協力のもと「令和2年度 第3次安曇野市農業・農村振興基本計画策定に資する調査・分析」を右記の通り行いました。

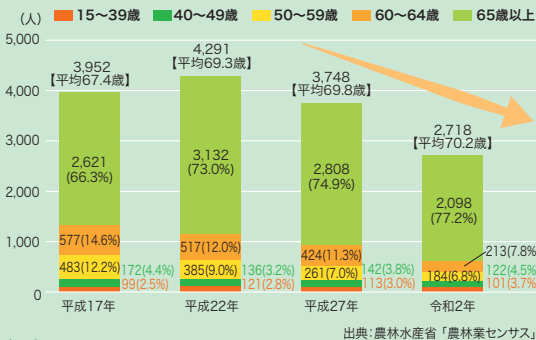
調査	概要
● 社会動向の把握 国・長野県の農業分野における動向調査	国の「食料・農業・農村基本計画」および長野県の「第3期長野県食と農業農村振興計画」から農業分野における動向を整理し、安曇野市の農業を取り巻く情勢を把握する。
● 統計の分析	農林業センサス等の統計調査の分析を行い、安曇野市の農業の現状や課題を把握する。
● 担い手アンケート 農業・農村振興に関するアンケート調査	安曇野市で農業経営に取り組む者の現状と、今後の意向を把握する。 調査方法：郵送調査 調査期間：令和2年12月4日から令和3年1月15日

2. 安曇野市の農業の現況

(1) 担い手の状況

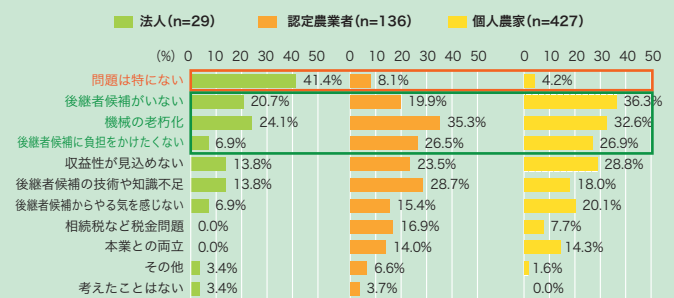
■ 年齢別基幹的農業従事者数の構成推移

兼業・零細農家が高齢等により離農し、本市の農業に従事する人口が急減しています。



■ 後継者に経営移譲する際の課題（複数回答）

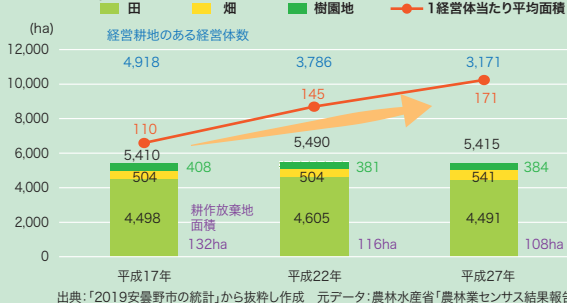
後継者の候補がいても、収益性の低さ、負担等の理由で、経営規模が小さくなるほど後継者に農業を継がせることが難しいと考えています。



(2) 農地の状況

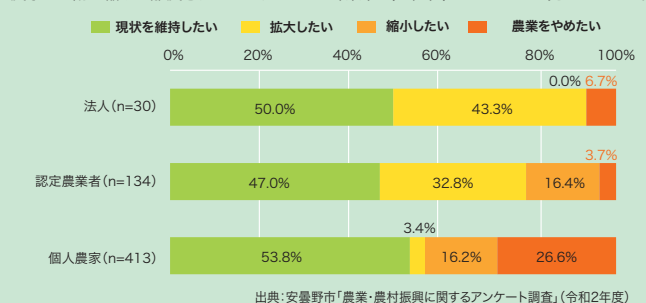
■ 耕作面積の推移

経営体数が減少する中でも、耕作面積は維持されており、集積が進んでいるといえます。



■ 経営規模の拡大意向

法人や認定農業者の3~4割が経営拡大意向を持っている一方、認定農業者でも2割、個人農家で4割が縮小・離農意向があり、さらなる集約化（二極化）が進むことが見込まれます。



担い手、農地の状況のポイント

■ 農業の経営基盤は、担い手の急減でゆらいでいる。

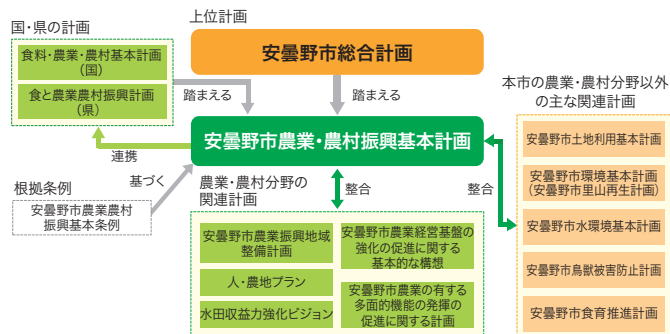
→これまででは空いた農地が集積され活用されてきたものの、今後は、担い手のキャパシティを越えた農地が空いてくる可能性があり、計画的な対応が求められます。

2. 本計画の位置づけと期間

本計画は、第2次安曇野市総合計画で定められた5つの基本目標の1つである「魅力ある産業を維持・創造するまち」の実現に向けた農業・農村分野の個別計画として位置づけられ、安曇野市農業農村振興基本条例(以下、農業農村条例)に基づいて策定される計画です。

本計画は、本市の農業・農村分野のすべての施策の方向性を総合的に示す計画として、本市の様々な関連計画と整合し、必要に応じて国及び県の農業・農村施策と効果的に連携していきます。

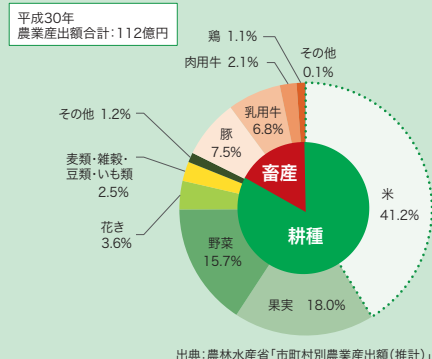
計画期間は令和4年度(2022年度)から令和8年度(2026年度)までの5年間とします。



(3) 生産の状況

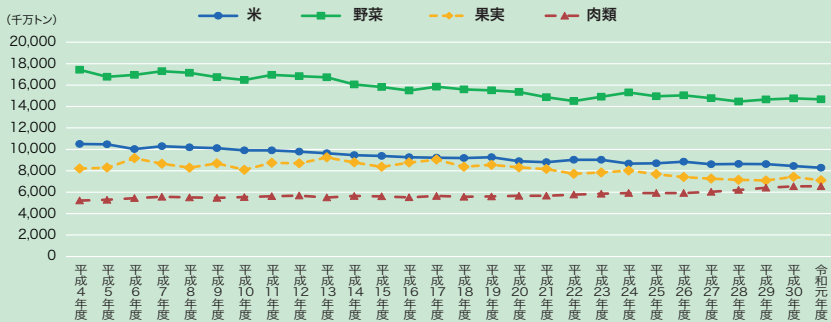
■ 作目別農業産出額の割合・推移

作目別農業産出額は、耕種(特に米)の農業産出額が高くなっています。



■ 作目別国内消費仕向量

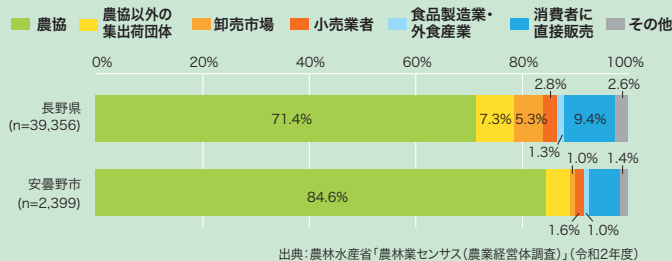
一方で、米の国内市場は縮小しており「選ばれる農産物」をどのように作っていくかが問われています。



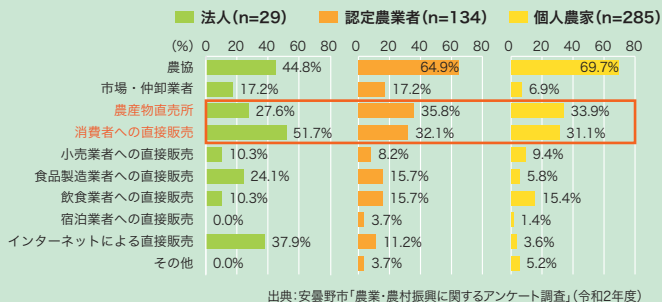
(4) 販売の状況

■ 農産物販売金額1位の出荷先別経営体数

現在は農協が主要な出荷先となっているものの、10年後の販売先として、消費者への直接販売、農産物直売所等を挙げる農家も多いです。



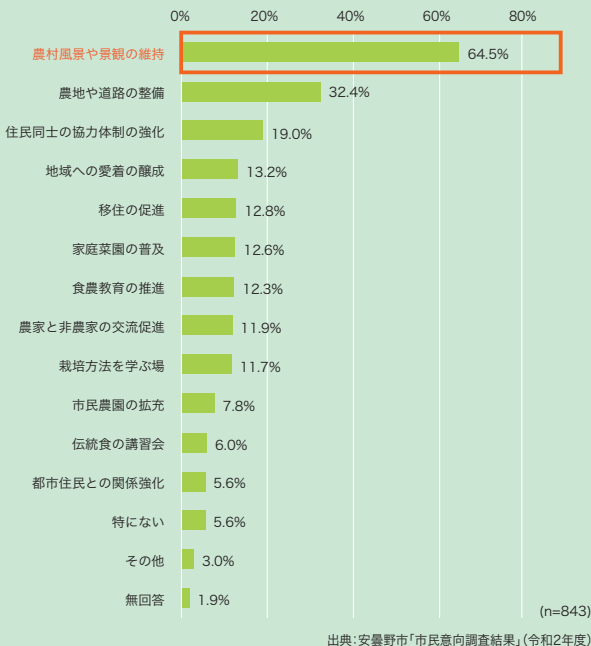
■ 農産物の10年後の出荷先



(5) 市民・農業者の意識

■ 安曇野市の農村らしさを生かしたまちづくり

農業者も市民と同様に、農村風景や景観の維持が重要としています。



▶ 生産・販売の状況のポイント

■ 農業のサプライチェーン、国内市場の縮小、米の流通の自由化の流れの中で、転換期を迎えている。

→独自の販路を開拓する経営体の動きを支援し、「選ばれる農産物」を増やしなが、地域全体の競争力を高めていく必要があります。

→安曇野の田園風景を農業者と市民の共通の価値として捉え、市民を含む関係者の農業・農村への関わりを増やしていく必要があります。

3. 第2次計画の達成状況

第2次計画の達成状況を評価した結果得られた、本計画の策定に向けて押さえるべきポイントは以下の通りです。

▶ 第2次計画の達成状況のポイント

■安曇野市のこれからの農業・農村を支える担い手との連携の重要性がますます高まっています。

→近年、農地の集積が進んでいます。地域の中核となる担い手・組織を見える化して、協力体制を強化していくことが求められます。
また、市民の農への関わりをさらに促進していくことが重要です。

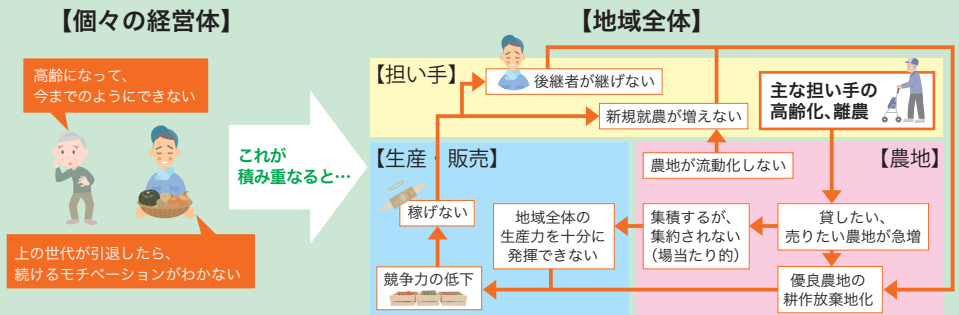
■市場環境が激変する中で、農産物へのニーズは刻々と変化しています。

→地域として、作付面積や売上を維持・向上していくことが重要です。基幹作物を中心に、生産・販売の状況を把握し、サプライチェーンに対してPDCAを的確に回すことが求められます。
→また、戦略的に安曇野ブランドを育成していくことが重要です。

4. 現在の延長線上にある未来と選択する未来

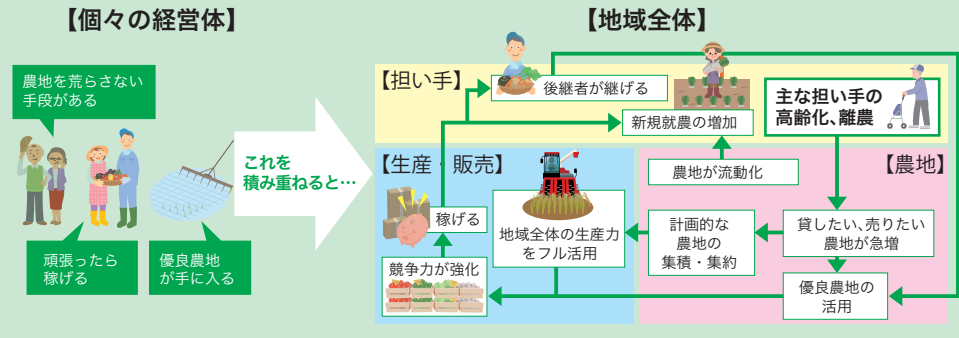
(1) 現在の延長線上にある未来

安曇野市の農業の現況、第2次計画の達成状況を踏まえ、現状の延長線上にある未来を想定します。個々の経営体では、高齢化が進み、今までのように農業ができない状況が急増していきます。「遊休農地の集積・集約が進まない」と、「地域全体の生産力が落ち、競争力が低下」し、「後継者や新規就農者にとっての魅力が薄れ」、「さらに遊休農地化が加速する」という負の循環が発生していきます。



(2) 選択する未来

一方で、「農地の集積・集約が進む」と、「地域全体の生産力がフル活用でき、競争力が高まり」、「後継者の事業承継や新規就農が増加」し、「さらに農地集積・集約が加速する」という正の循環が発生していきます。このような正の循環が創出される未来を選択していくことが重要です。



5. 目指すべき施策の方向性

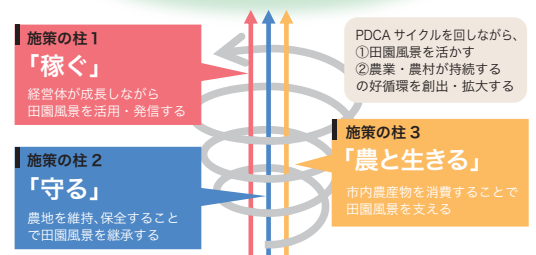
以上を踏まえ、目指すべき姿を「田園風景と共生する農と暮らし～次世代へつなぐ、ゆたかな安曇野～」として、安曇野市らしい田園風景を活かし、持続させることに寄与する「農」に関する活動を積極的に支援します。

そのことで、安曇野ブランドや郷土愛を高め、再び、安曇野市らしい田園風景を活かし、農業・農村が持続する、という好循環をつくります。そして、安曇野市の「田園風景」やその可能性を次世代につないでいきます。

これらのことを、安曇野市の「農」のあらゆる関係者と協力して推進します。

また、これを実現するため、右図に示す、3つの施策の柱を設定します。

【目指すべき姿】 田園風景と共生する農と暮らし ～次世代へつなぐ、ゆたかな安曇野～



6. 目指すべき姿の実現に向けて

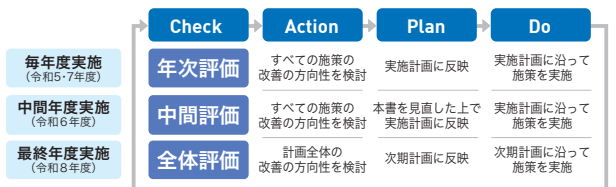
本計画を推進するためには、安曇野市の農業を取り巻く多様な主体の協力・連携が必要です。安曇野市らしい田園風景は地域のアイデンティティとなっています。本市の農業のすべての関係者が、安曇野市らしい田園風景と共生する農と暮らしを充実するために重要な役割を担っていることを意識し、地域への誇りと愛着を持って農に向き合っていくことが重要です。



7. 計画の進捗管理

本計画の施策効果の最大化を図り、実効性を高めるため、進捗管理を行います。

PDCAを基本とし、Check(評価)では、施策の成果や実施状況を把握・評価しやすくするため、「目指すべき姿」と「施策」に目標を設定し、目標同士を関連付けながら総合的に点検・評価ができるようにします。



8. 施策体系と数値目標

重点プロジェクト	
3	農業関係人口の拡大プロジェクト
2	小規模農家の流通・販路の構築プロジェクト
1	農業者収入の底上げと安定化を目指す“支え合い”プロジェクト

目指すべき姿	施策の柱	振興方針	施策			
田園風景と共生する農と暮らし 次世代へつなぐ、ゆたかな安曇野	「稼ぐ」 経営体が成長しながら 田園風景を活用・発信する 施策の主な対象者 農業法人、認定農業者、集落営農組織、 新規就農者 等	経営基盤の強化支援 安曇野市の農業をけん引する経営体を確保・育成するため、経営拡大意向のある経営体の経営基盤の強化を目指して、経営体を支援するための窓口の充実、経営高度化支援、人材獲得・育成支援を実施します。	1 経営高度化支援 2 人材獲得・育成支援			
		生産基盤の強化支援 安曇野市の農業をけん引する経営体を確保・育成するため、経営拡大意向のある経営体の生産基盤の強化を目指して、優良農地の集約を推進するとともに、技術の研究及び導入支援を実施します。	1 人・農地プランの推進 2 技術の研究と導入			
		高付加価値化支援 安曇野市の農業をけん引する経営体を確保・育成するため、経営拡大意向のある経営体の農産物の高付加価値化を目指して行う、新品種の導入・加工品の開発を支援するとともに、マーケティング支援、安曇野ブランドの育成を推進します。	1 新品種の導入・6次産業化の支援 2 マーケティング支援 3 安曇野ブランドの育成			●
	「守る」 農地を維持、保全することで 田園風景を継承する 施策の主な対象者 家族経営の農家、集落営農組織、 自給的農家、土地持ち非農家、市民 等	担い手の確保・育成 農地を維持、保全することで、多様な「農」の担い手が十分にいる状態を目指して、経営の世代交代支援、新規就農者の確保、地域リーダーの確保・育成を推進します。	1 経営の世代交代支援 2 農業者の確保・育成 3 地域リーダー等の確保・育成			
		生産活動の支援 農地を維持、保全することで、多様な「農」の担い手がやりがいを持って生産活動を続けられる状態を目指して、生産量の維持、農産物の質の確保、6次産業化を推進します。	1 生産量の維持 2 農産物の質の確保			
		販路の維持・拡大 農地を維持、保全することで、多様な「農」の担い手がやりがいを感じる収入が得られる状態を目指して、有利販売先の開拓支援、直売所の活用促進を推進します。	1 有利販売先の開拓支援 2 消費者と直接つながる販売支援	●	●	●
		農地の維持 農地を維持、保全することで、農地を使いやすい状態で保全し、活用している状態を目指して、農地の流動化の促進、地域での農地維持の推進、農業用施設の維持・更新、鳥獣害対策を推進します。	1 地域での農地維持・再生の促進 2 生産基盤の維持・更新 3 鳥獣害対策の推進			
		環境問題への対応 農地を維持、保全することで、社会変化へ対応している状態、生産活動への市民の理解を得ている状態を目指して、循環型社会への転換の推進、農と暮らしの調和の実現を推進します。	1 持続可能な循環型社会への転換の推進 2 地域での農と暮らしの環境維持			
	「農と生きる」 市内農産物を消費することで 田園風景を支える 施策の主な対象者 自給的農家、市民、直売所 等	農業への理解の醸成 市民と農の関わりを増やすため、農業に対する理解が広まっている状態を目指して、食育、農に関わる場の提供、市民の農業者との交流の場づくりを推進します。	1 食農教育の推進 2 農に関わる交流人口の拡大 3 市民と農業者との交流の場づくり			●
		地元農産物の消費拡大 市民と農の関わりを増やすため、地元農産物がより消費される状態を目指して、直売所の魅力向上、市民の消費促進を推進します。	1 直売所の魅力向上 2 市民の「農」への関わりへの促進			●

担い手に関する目標

	実績値 (R2)	目標値 (R8)
・認定農業者数 [経営体]	272	270 →
・法人数 [団体 / 年] (認定農業者の内)	42	48 →
・新規就農者数 [人 / 年]	11	10 →
・総合的な満足度 [%]	個人農家 63.2 認定農業者 87.0 農業法人 51.5	68.0 92.0 56.0 (R7)
・農業をやめたいと考えている個人農家の割合 [%]	24.1	19.0 (R7)

農地に関する目標

	実績値 (R2)	目標値 (R8)
・栽培面積 [ha] (基幹作物全体)	4,669	4,654 →
・農地の集積率 [%] (中核的経営体へ)	52.4	58.0 →
・農用地の減少面積 [ha]	3	2 →
・荒廃農地面積 [ha]	30.3	30.0 →
・多面的取組率 [%] (多面的機能支払事業取組面積)	58	61 →

生産・販売に関する目標

	実績値 (R2)	目標値 (R8)
・農産物の売上 [百万円] (基幹作物全体)	6,191	6,262 →
・一定の農業所得が確保されている農家の割合 [%]	個人農家 37.6 認定農業者 23.0 農業法人 66.7	42.0 28.0 72.0 (R7)
・農産物直売所の運営 [箇所] (直売所数・売上総額) [百万円]	10 1,812	11 1,830 →
・産地消費の割合 [%] (学校給食)	24.8	29.0 →

第2章 施策の展開

1. 施策の内容 詳細は計画書をご覧ください。

2. 重点プロジェクトの考え方と概要

(1) 重点プロジェクトの考え方

本市の農業の現況を分析することで、「目指すべき姿」「3つの柱」の実現に向けては以下の課題を解決していくことが必要であることが分かりました。



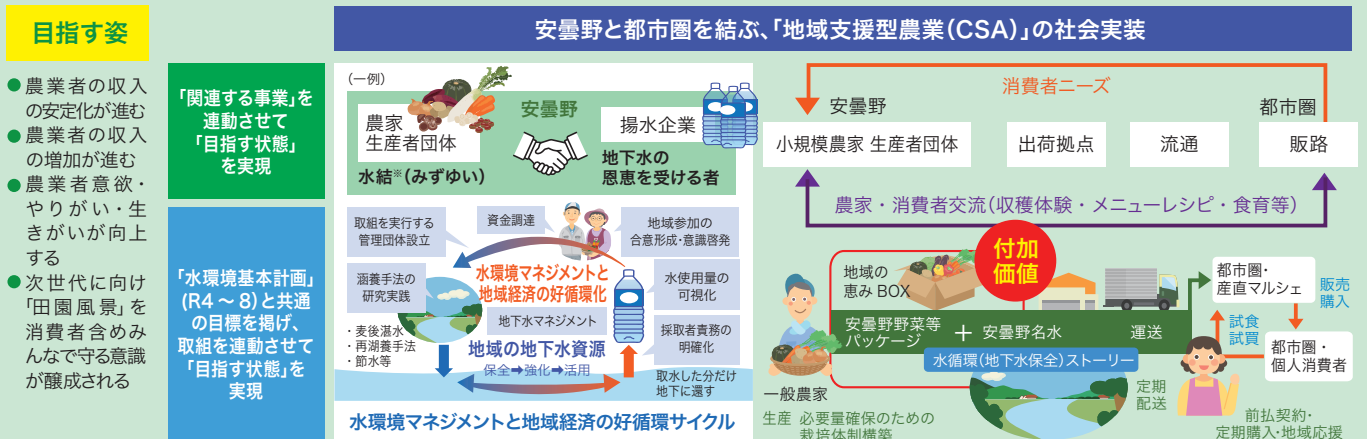
- ・「選ばれる農産物」を増やしなが、地域全体の競争力を高める必要がある
- ・「安曇野の田園風景を農業者と市民の共通の価値として捉え、市民を含む関係者の農業・農村への関わりを増やしていくことが求められる

重点プロジェクトは、これらの課題を計画推進に向けたボトルネックとしてとらえ、解消することで、関連する施策全体の効果を底上げしていくことを目指します。

(2) 重点プロジェクトの概要 重点プロジェクトとして以下の3つを設定します。

重点1 農業者収入の底上げと安定化を目指す“支え合い”プロジェクト

地域支援型農業（CSA）のコンセプトを利用して、生産者と消費者が直接つながる販路を、一例としては、農家と揚水事業者が連携しながら開拓します。商品にストーリーを付加することによる価値の向上や、ネット等での試行販売を繰り返しながら、民間のみで自走するサプライチェーンの構築を目指します（令和9年度を目標とする）。



※「水結、みずゆい」とは、限りある地下水を適正に活用するため、市・市民・企業が連携し、水環境保全の担い手活動の輪を広げ、魅力発信していく人たちの総称(安曇野市水環境基本計画(抜粋))で、本計画を推進する中で、農政部門における実現で連携を図ります。

重点2 小規模農家の流通・販路の構築プロジェクト

農家と流通事業者等が連携し、安曇野野菜と都市マーケットをつなぐ新たな生産-流通-販売の体制づくりを推進します。「生産」では、生産者グループで契約栽培を受ける体制を充実します。「流通」では、地域の出荷拠点や輸送資源を組み合わせながら、低コストで農産物運ぶ体制を構築します。「販売」では、安曇野野菜の市場への浸透を戦略的に行うとともに、流通・販売に精通した農家を育成することで多様な販路を開拓します。



重点3 農業関係人口の拡大プロジェクト

市民が「農」を支える活動を促進すること目的として、食育や地産地消に関する庁内連携体制を構築するとともに、地元クリエイターや観光・飲食事業者等と連携して情報発信を充実させることで、安曇野農産物の域内消費、地域活動への参加、援農への参加等につなげます。

- 各家庭や学校給食、市内宿泊施設・飲食業等での地産地消率が向上する
- 生産者と消費者との交流が盛んになり、多様な農ある暮らしが広がる
- 市内小売・飲食事業者や地元クリエイター（デザイナー、写真家）等と連携し、効果的に情報が発信される

